

7 番 瀬 戸

受付番号第2号、議席番号7番、瀬戸伸二。

件名、「将来の人口減少問題への取組は」。

令和2年1月1日から令和3年1月1日までの当町の人口は144人減少している。この間に総人口も1万人を割ってしまった。今後10年、山北町の人口は国立社会保障・人口問題研究所推計では、大幅な人口減少が見込まれている。

さて、1月5日の全員協議会において、説明を受けた山北町都市計画マスタープラン策定の進捗状況についての中で、令和12年における本町の目標人口は9,263人と設定されているが、達成は可能であろうか。達成に向けた取組が重要と考え、現在コロナ禍にあり、都市部では働き方の変化による都市部から地方への人口の流出が起きていることが報道により明らかになっている。山北町の将来を考えたとき、今が人口減少にブレーキをかけるチャンスと考え、質問。

1、山北町都市計画マスタープラン(素案)に本町目標人口9,263人とあるが、目標達成に向けての具体的な取組は。

2、人口減少の著しい三保、清水、共和地区の定住対策はどうなっているのか。

3、人口減少により、無形文化財に関わる人材確保及び人材育成はどのようにするのか。

以上です。

議 長

答弁願います。

町長。

町 長

それでは、瀬戸伸二議員から「将来の人口減少問題への取組は」についての御質問をいただきました。

初めに1点目の御質問の「山北町都市計画マスタープラン(素案)に本町目標人口9,263人とあるが、目標達成に向けての具体的な取組は」についてですが、都市計画マスタープランの位置づけと役割について、御説明させていただきますと、都市計画マスタープランとは、都市計画法に規定されている法定計画であり、役割といたしましては、まちづくりの将来像を描き

つつ、土地利用や都市施設における整備の方針を策定することで、町の目指すべき姿を誘導していくものであります。その中で、今回の目標人口としております令和12年における9,263人という数値は山北町第2期人口ビジョン・総合戦略の人口推移を基としております。なお、これは各種施策を実行することで達成しようとする目標値であり、都市計画マスタープランでは、人口減少に対する定住対策の重要性を基本に良好な住環境を整備することに重きを置いております。

具体的には交通インフラの整備として、東山北駅前広場等の交通結節点の整備、住環境整備として、既存公園の整備などがありますが、山北町第5次総合計画を最上位に山北町第3次土地利用計画などと整合するものであり、目標達成のため、各種施策を推進してまいります。

次に、2点目の御質問の「人口減少が著しい三保、清水、共和地区の定住対策はどうなっているか」についてであります。町では令和2年3月に令和2年度から令和6年度までの5年間を対象期間とした山北町第3次定住総合対策事業大綱を作成し、定住促進に関する町全体の総合的な計画や取組内容を定め、庁内全体で移住・定住施策の促進に取り組んでおりますが、地域ごとの状況に合わせた具体的な対策については、現状では行っておりません。

しかし、最近では、移住相談や物件紹介において、「山に囲まれていて、周囲に家がないところで暮らしたい」「農業をやりたいので畑つきの物件を探している」など、地方での生活を送りたいといった声が多く寄せられております。三保、清水、共和地区などはそのような条件に適していると考えておりますが、現状では、空き家バンクに登録されている物件の中に希望に添えるような物件が少なく、御紹介できない状況であることから、現在各地区の定住協力隊員からいただいた情報等を基に、物件の所有者に対して、現在の家屋の状況について、アンケートを実施しております。そして、その結果に基づき、空き家の所有者の方へ空き家バンクへの登録を促し、登録物件の増加を図ることで、移住希望者の要望に沿えるような体制を整え、今後の移住・定住につなげていきたいと考えております。

さらに現在建設中の新東名高速道路（仮称）山北スマートインターチェンジの供用開始により、多くの方々に本町を知ってもらい、また訪れていただ

く機会が増えると考えられますので、そのような方々に住みたいと思っただけよう、地域の方々とも連携を図りながら、本町の魅力を発信していきたいと考えております。

次に、3点目の御質問の「人口減少による無形文化財に関わる人材確保及び人材育成はどのようにするのか」についてであります。現在、山北町には国、県、町が指定する無形文化財が六つあります。それ以外にも特色ある伝統行事などが各地域に伝承されていると思われ。無形文化財は、人から人へ継承するものであり、保存伝承者である地域や保存団体は、少子高齢化や人口減少により、伝承に、大きな影響を及ぼし、本町のみならず、全国的にも大変厳しい環境となっております。そのような中、本町では指定を受けた文化財については、山北町指定文化財保護助成金交付要領を策定し、支援をしております。

また、人をつなぐ、人を育てる観点からも、地域を知り、郷土愛を育み、歴史を伝えていくため、小学校5、6年生を対象とした社会科副読本「歴史・文化から学ぶわたしたちの山北」を発行し、町の文化を学び、次代を担う人材の育成に取り組んでおります。

中でも共和地区に伝わる山北のお峯入りは国指定重要無形民俗文化財に指定されており、先月の12日に開催された国の文化審査会無形文化遺産部会において、令和3年におけるユネスコ無形文化遺産への提案候補として選定されました。今後、提案書が提出され、最短で令和4年11月頃を目途に文化遺産登録が決定されますと、これを機に山北のお峯入りの継承意欲が活発化し、人口流出の抑制につながることを期待しております。さらに今後もこれらの取組を継続し、人材確保、人材育成に必要な支援に取り組んでまいります。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 初めに町長に質問いたします。本年度当町人口が1万人を割ってしまった。来月から令和3年度がスタートするんですが、1万人復活のシナリオというのは、町長お持ちでしょうか。

議 長 町長。

町 長 人口減少そのものは、もう日本全体の人口が減っていくわけですから、ここには、自治体によって増えていくところ、あるいは大幅に減少していくと

ころというのはありますけども。山北町では、高齢者人口が4割を超えているというような中で、自然減に関しては食い止める方法がないというふうに思っております。ですから、人口減少そのものを止めるということは、なかなか難しいというふうに考えておりますけれども、先ほど子育てでも申し上げましたとおり、山北町で結婚して、お子さんを生んでいただく、あるいは育てていただく。そういう人を最低限60人とか、70人とかはどうしても確保していきたいというふうに考えておりますので。人口減少で1万人とか、そういったようなことは復活させるというようなことを考えますと、それは逆効果ということもあると思います。

一番単純なやり方としては、いろいろ介護のところを誘致するということをすれば、東京とか何かにはいっぱいそういったものがありますので。そういったところでは、住民を受け入れるということはできますけども。そういったようなことをやってしまえば、当然、財政負担で町が立ち行かなくなるというようなことで、ただ、人口の数だけを見るのではなくて、どの世代の人口を復活させていくか、今抑えていくかということが、私たちにとっては非常に大事な問題だというふうに捉えております。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 文献を見ると、検証はされていると。検証、分析はされていると。ただ、それに対する具体的な取組というものが見えてこないというのが現状だと思うんですが。その辺はいかがでしょうか。

議 長 副町長。

副 町 長 すみません。人口につきましては、今の世の中で全国的な傾向として減っちゃっているというのは、致し方ないというふうに思っています。それで、瀬戸議員からの御質問にあるように、令和12年の都市マスターの中で、9,200人という約その辺のところ。ですから、1万人復活ということではなくて、もう致し方ないと。ただし、減る幅をできるだけ抑えようということで町は考えて、今実施をしています。

それから、具体的な取組といいますのは、総合計画、それから都市マスター、土地利用計画、都市マスタープランの計画、その他の計画づくりの中で、かなり細かくやっていると思います。これが実現したときに、人口の1万人

復活というのは無理にしても、できるだけ抑えられるというふうな期待は持っていますが、それについても、ちょっとまだ未確定な部分もありまして。町長からも人口を増やすということは今の時代は難しいだろうと。ただ、スピードも、減るスピードをできるだけにぶらせる。にぶくなるような形のものも期待しているというお言葉もありますし、その一環としてありますけれども、丸山の関係等も全区画売れてしまいました。それで、先月に至っては、転入者のほうが転出者よりも多くなっている。ただ、お年寄りが多いので、死亡している方は多いのですが、そういうふうな状況があるということを御承知いただきたいというふうに思います。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 本文の中でも書いておりますが、1月の新聞によりますと、6か月連続で東京の人口が流出していると。コロナ禍において、テレワーク等の働き方の変化という部分で、私を含めて、ほかの議員の方もテレワークの取組について聞いた部分もあるんですが。実際そのような情報について、どのように取り扱っているのか教えてください。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように東京のほうからコロナをきっかけとしてと思いますけど、テレワークとか、様々な中で東京から離れて来られると。情報によれば、厚木あたりが多いとか言われていますけど。この近隣で言えば、やはり小田原市さんが新幹線が使えたり、様々なところで非常に増えているというふうに聞いております。山北町もおっしゃるように、そういうようなエリアの中に入っているというふうに思っておりますので、そういった意味では、そういうきっかけで山北町、さらにそういうような移住して来られる方が増えていただくのを期待しておるのですけども。

実際には、オファーはあるのですが、物件がないというところが、今非常に悩ましいところで。丸山も全て完売してしまいましたけども、さらに当然、その引き合いがなくてもあるわけですね。ですから、そういったようなものを町としても考えていかなければいけないだろうと。せっかく山北町も候補の中に入って、来てもいいよというふうな気持ちを持っていらっしゃる方がいて、なおかつそこに住む手だてがないというような。あるいは、

自分が思っているものと一致しないということで、ほかのところへ移ってしまうのは非常に残念です。そういった意味では、ちょうど、こういうような東京のほうから、かなりの方が地方に移られるという、こういうチャンスですから、この中で山北町も積極的に取り組んでいきたいというふうに思っております。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 私 が机上でちょっと計算した部分で正確な数値とは言えないかもしれませんが、近年 10 年間の近隣 1 市 5 町の人口の推移ということで、開成町は 11%伸びているのですが、ほかの市は減っていると。市町は減っていると。ちなみに南足柄市が 6.3%減少、大井町がマイナス 4.5、松田が 8.5、中井が 5.6、当町においては、これが 15%なのです。当町と比べると、人口減少が著しいという形になっているので、その辺の改善という部分ではどのようにお考えでしょうか。

議 長 町長。

町 長 今ちょうど西部協等が、様々な 1 市 5 町のいろいろな中でも、県のほうからそういったような移住に関する目標値というんですか、そういったものが出されております。その中で、県のほうの目標値と、我々としては例えば、県のほうは全体として県西地域で増やしたいというような意向を持っておりますけれども。市町村ごとに、例えば山北町そういう基準でやられてしまうと、当然、高齢者が多いわけですから、単純に人口比較でいくと、なかなか難しい。むしろ下がってしまうという、そういう中で、いや、そうじゃなくて、例えば移住して来られる方の数だけの問題にしてくれとか、あるいは、またそこでお仕事をされたり、あるいは年齢的にどうだとか、そういったようなこともカウントをしていただけないかということでやっております。

ですから、各町がそれぞれ違うような目的でこういったような人口抑制、あるいは移住に対してやっておりますけれども。それらのいいところを捉えながら、やはりやっていかなければいけないということで考えておりますので、山北町でやっております、例えばお試しで住んでいただくお試し住宅なんかについても、山北町は割とそれについては早くやったんですけれども、今現在、小田原市さんがやっているのは市がやるのではなくて、民間に委託してしま

ってやっている。私どもとしては、そういう方法のほうがより広範囲に住んでいけるのではないかというふうに考えております。そういったことも含めながら、様々な自治体ごとの取組について、いいところは取り入れてやっていきたいというふうに思っておりますので、瀬戸議員がおっしゃるような数字だけで、どこの数値で見るとかによって、取組とか、結果も少しずつ違ってきますので、そういったことを含めながら慎重に検討してまいりたいというふうに思っております。

議 長 瀬戸 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 数字だけじゃないということは、十分分かっているのですけれど、ただ、先ほどの中にある 9,263 人という数字を見たときに、10 年間 15%減っている。じゃあ向こう 10 年 15%減ったというのは 8,500 前後なんです。去年 1 年間で 144 人減ったと。それでも、それが 10 年続いたとしても、8,500 人強という形になるんです。国立社会人口問題研究所は 10 年後は 7,627 という数字を出しているんです。私の今言った 10 年後の推定値と人口問題研究所の数値よりは、マスタープランの数字というのは、大きな数字になっているんですが。やっぱり私営業をずっとやっていたもので、数字について、目標というものについては達成しなくちゃいけないものだという認識があるので、やっぱり 9,263 人達成に向けた取組というのが必要じゃないかと思うんですが。御答弁の中にも書いてありますけれども、あくまで推移という形のものでありましたけれど、でも具体的な取組というのは、今後必要ではないでしょうか。

議 長 町長。

町 長 人口問題については、かなり前からいろいろな人から新聞なんかでも非常に問題というんですか、話題になりまして。特に山北町については、数字が悪く出ると。どうしてかといえば、要するに子どもを産める女性の方の数とか、そういった者も決して多くないというようなことから、しかも高齢者が多いということですから、なかなか減少の中での例えば 10 年後とか、そういったことを想定すると、どうしても数字が悪くなるということは、当然のことだろうというふうに考えております。

そういう中で、山北町としては、やはり子育て世代が移住していただける

のが一番いいのではないかと。今からそういう小さなお子さんがこれから山北町にずっと生活していただくということは、なかなか優しいようで難しいということでございますので。そういったことも含めながら、Iターン、Uターン、Jターンといろいろ様々な呼び名がございますけれども、そういう中で、スマートインターチェンジをきっかけとして、あるいはまたこういうコロナ禍の中で、移住していただく。そのために、今水上住宅であるとか、様々な施策の中で山北町を選択していただくような方法をとろうということで、東山北1000計画もそうですけれども、そういったような流れの中で、ぜひ歯止めをかけていきたいというふうに考えておりますので、一つだけの政策じゃなくて、全体の中で都市計画も考えていかなければいけない中、交通インフラも考えていかなければいけない。そういった中で、山北町がやはり生活する若い子育て世代について魅力的だと思われるような、そんなような町をつくっていききたいというふうに思っております。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 先日、神奈川テレビの中で放映された部分、やっぱり見やすく、見た人にはコマーシャルになったなという感じはしております。先ほど、町長のほうも子育て世代に優しい町だということで、そういう評価というのは、私も住民の方から聞いております。ただ、先ほどテレビのことを言いましたけれど、いいものをどういうふうに町内外にアピールするのかと、アピールする体制がちょっと弱いのではなかろうかと感じるんですが、その辺いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、なかなかアピールについては、今SNSとか、様々な媒体がございますけれども、近隣では、それなりに知られているかもしれませんが、ちょっと離れば山北町ってどこというようなことですので、そういった意味では、非常にまだ遅れているというふうに思っております。

それに関してはストレートに移住とかに関わらなくても、まず山北町を知っていただくためにふるさと納税とか、様々なものにもう少し力を入れて、山北町というのがあるというようなことを知っていただく。また、先日もTVKかなんかで放送がされましたけれども、ちょこっと山北町で暮らしてみ



ようみたいな番組がございましたけれども、そういったようなものも含めながら、山北町をまず知っていただく。そして、移住の対象、あるいはそういったことの中に、山北町を加えていただいて、そしてスマートができたときには、何度でも来ていただくような。まずは私はリピーターを増やしたいというふうに考えておりますので、関係人口も同じですけども、そういった中で、何とか山北町の人口減少を少しでも食い止めたいというふうに思っております。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 続いて、2番目のほうに行きますが、これも数字で恐縮なのですが、過去10年間に三保地区が30%人口減少、それと清水地区が24.2%、共和27.7%という減少になっております。一番心配するのが、今後、自治会が維持できるのかということなんですが、自治会について、現在統合とかの計画はなされているのでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 自治会の関係でございますけれども、2年ほど前に、三保地域のほうで二つの自治会が統合したという事例がございますけれども、現在のところ、町のほうではそういう統合したりですとか、そういう要望も聞いておりませんし、統合を進めるような考えも現時点ではございません。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 たしか世附のほうはもう1軒しか残っていないような話も聞いているのですけれど。自治会1軒でも成り立つわけでしょうか。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 1軒で自治会が成り立つかというお話でございますけれども、自治会の関係につきましては、あくまで自治会さんのほうもお考えをまずは優先していきたいというふうに考えておりますので、仮にそういった自治会から統合のほうをお願いしたいとか、そういう御要望があった中で、それについては判断をしていきたいというふうに考えております。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 先ほど、町長のほうもおっしゃいましたけれど、定住に向けての物件がないと。今、三保地区でバンクに登録しているのが1件だけという形だと思う

んですけれど。やはり今どこの自治会もそうなのですから、お年寄りの方によると、地の者、転入者という、そういう差別じゃないんですけど、そういう意識がまだ残っているという部分も聞いております。その辺、やはり町として、その辺の啓蒙が必要ではなからうかなと思うのですが、その辺いかがでしょうか。

議 長 瀬戸伸二議員、啓蒙という言葉は控えていただいて、継承なりというような言い方に変更していただけますでしょうか。

町長。

町 長 もちろん、そういうこともあるかとは思っております。しかし、具体的に特に三つの地域、三保、清水、共和については、やはり住んでいらっしゃる方自体が例えばお子さんとかなんかが通学、あるいはいろいろな買い物等についても、非常に御苦労なさっている。その結果として、今度の丸山でもそうですけど、何軒かの方が三保のほうから引っ越してきました。山北町としては、基本的には山北町に住んでいただきたい。ですから、特定の地域のところで、当然、そこで維持していただきたいわけですから、そのところ定住・移住というのは考えなきゃいけないんですけど。

そもそも論として、御自分の家族の方が山北町に移ってしまうということを見ると、その辺がやはり我々としては、なかなかそこまではタッチできないだろうというふうに考えておりますので。私としては、今いろいろな意味でコロナ禍のいうように、あまり人がいないところで住んでみたいとか、様々な農地があるところ、山があるところで暮らしてみたいという方もいらっしゃいますので、そういったような方々に住んでいただくということで。やはり実際にそこで暮らしている方に、いろいろな自治会とか、そういったような中で、様々な今までのお付き合いもありますから、そういった中に移住して来られた方が溶け込んでいただきたいわけですが、そこについては、やはりそれぞれの地域の特性というのがございますから、その中で、皆さんで工夫していただいて、そして町としてはできるだけそういったような場を設けるということはいたしますけども、それについて積極的にこういうふうにしてほしいとか、ああいうふうにしてほしいというようなことは、私は考えておりません。

議 長 瀬戸伸二議員。  
7 番 瀬 戸 なかなか住む物件がないということがちょっとネックになってるんですけど、これは12月の定例会でもお話しさせていただいたんですが、三保清水地域においては生活圏が御殿場、小山にも至っていると。小山工業団地も入れたけど、住居の提供がまだ厳しい状況にあるということで、物件がないということがちょっとネックなんですけど、再度、静岡の企業に山北に住んでもらうようなアプローチをかけたらどうでしょうかということなんですけど、いかがでしょうか。

議 長 町長。  
町 長 特に清水地域については、スマートインターが開通するのをきっかけとして、そういったような、やはり小山、御殿場あたりの方でも移住していただく、あるいは、またこちらへ住んでいただいて向こうに勤めていただくというのが、当然必要だというふうに思いますし、そういうきっかけになるというふうに思っておりますので、そういったようなことは、当然、町として積極的に推進していきたいということで思っておりますので、ぜひそういうような候補地があれば、そういったようなことも当然やっていきたいというふうに思っております。

議 長 瀬戸伸二議員。  
7 番 瀬 戸 3番目に行きます。2月13日の新聞、私が通告書を出した後だったんですが、ユネスコ無形文化遺産登録審査に向けて再提案という形でお峯入りが入っております。

町長のコメントとして、「お峯入りは地域が一带となって守り受け継いできた山北の誇る文化遺産。国内と世界に向けて文化的価値を発信することでこれまで以上の雇用と継承につながってほしい」というコメントが出されております。この文化遺産については保護団体という部分があるかと思うんですけど、実際に人材的な部分については、町がどのように関わるおつもりでしょうか。

議 長 生涯学習課長。  
生涯学習課長 はい、お答えいたします。  
人材的な部分ですが、お峯入りに限られていただいでよろしいでしょうか。

保存団体のほうに、先日ヒアリングをさせていただきました。そういった中で、今お峯入りは80名ほどの演者が必要だということでございます。なかなか地元で、その演者を確保するのが難しく、たしか平成19年の公演の際には地元山北高校の生徒さんにぜひ演者をお願いしたいということで、たしかそのときは四、五名の生徒さんが御協力をいただいたそうです。

ただし、練習の時間だとか、交通手段、そこら辺の確保がなかなか困難であり、その後、平成24年に開催した際には、地元共和地区で全て演者を確保したと。共和地区にも教育施設1か所ございますので、そこら辺の協力も得て演者を確保したというお話をいただいております。

また、前回の平成29年の公演の際には、まさしく全部地元でそろえたということで御報告をいただいております。

そういったところで、人材の確保については保存会のほうで御苦労されているようでございます。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 平成19年、山北高校という部分があつて、山北高校の生徒が協力したという部分あります。

教育長に御質問いたしますが、山北高校の生徒がお峯入りに参加し、現在では山北高校、地域との共同による学校教育改革推進事業を行っています。この文化遺産と高校の教育との融合を図るという部分で、教育長、お峯入りを山高にコーディネートするお気持ちはございますでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 お峯につきまして、山北高校にというような今御質問がありましたけども、2年前に教育委員会が社会教育会議のほうに諮問しました。少子高齢化時代における社会教育の在り方を考えるという、この諮問をしまして、今年度まとめまして、今年度3月には、その答申がもらえるという形になってます。

その中に、社会教育会議では、特に共和地区に限って、特に特化してその辺のところを調査研究し、提言をまとめているというような状況でございます。

その中に、このお峯入りというものがございまして、先ほど、生涯学習課長が話をしましたように、19年度は山北高校が四、五人、参加したと。その次の24年のときには共和地区内だけのいろんなつてをたどって、それに関係

する方々だけで演じたということで、共和地区の方々については、やはり私  
たちのお峯入りだというような意識が大変強くて、共和地区の精神的な支柱  
であると、こういうふうなことでまとめられております。アンケート等、地  
域住民の方々、全員の方にアンケートをとって、それを集約した中で共同体  
意識をもって培ってきた、それがこのお峯入りに連綿と続いているんだとい  
うようなことでありますので、やはり山北高校と連携を考えていますけども、  
単に演者をお願いするだけではなくて、いろんな側面からのお願いするところ  
はあり得るかと思います。ただ、共和地区はやはり主体性をもってやって  
おられますので、そのところは、町としてはやっぱりそういった考えを支  
援していくところがやっぱり大事なんだというふうに考えてございます。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 最後になります、人口問題については本当に危機的な状況だと理解して  
おります。今コロナ禍で緊急事態宣言というものが発せられていますが、山  
北においても人口は緊急事態宣言に当たるのではなかろうかと私自身は思っ  
ております。役場自体で考えるのではなく、緊急事態宣言を町内に発して、  
町、町民と一緒に人口問題を考える必要が来てるのかなと私は思っ  
ているので、その辺のお考えを聞かせていただいて終わりにしたいと思います。

議 長 町長。

町 長 コロナに関しては、そもそも論として、令和2年の12月までは山北町はゼ  
ロでございました。令和3年になってから18名というように、推移し  
ましたけども、現在はそれから増えていないということで、非常に皆さんの  
そういった意識の高さに本当に感謝しております。

そういった中で既に緊急事態宣言がまた2週間ほど延びるのではないかと  
いうことで考えておりますけども、協力すべきことは協力する、そして、  
また皆さんが、山北の皆さんがコロナに関して注意していただいていること  
を念頭に置きながら、やはり山北町に来ていただく方がこういったコロナの  
中でも、特にキャンプとかなんかは非常に多いというふうに聞いております。  
こういった中でどういったようなことが山北町として、これからできるのか、  
コロナということを踏まえて、コロナ後ということも視野に入れながら、さ  
らにコロナにかからないような安心・安全な施策というのをつくっていか

ければいけないだろうというふうに思ってますので、やはり来られる方を、やはり安心・安全に住民の方にかからないように、そして、また決して来るなというのではなくて、ぜひ来ていただいて山北のよさを知っていただく、そういったようなことを考えていきたいというふうに思っておりますので、ぜひ皆さんからいろいろな提案も聞きながら、それらも生かせることができればいいのではないかとこのように思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

議 長 瀬戸伸二議員。

7 番 瀬 戸 ちよつと質問の趣旨と違つたんで、人口問題を役場だけじゃなくて山北町民と一緒に取組んだらどうかという質問なんです。

町 長 皆さん、瀬戸議員のおっしゃるような意識は当然持っているというふうには思っておりますけども、じゃあ具体的に人口減少を食い止める町民の一人一人が食い止める方法というようなことに関しては、やはりなかなか難しいのではないかとこのように思っております。

特に山北町、高齢化がこれだけ進んでおりますので、その中で例えば山北町に住んでいない家族の方も来なくていいよとか、あるいは様々なことを考へて対策をやっておりますので、なかなか全員の方で人口減少を自分として何か食い止める方法はないかというようなことで、同じような方向でいくというようなことが、これはなかなか現実には難しいというふうに、個々の、やはり皆さんの考へがございまして、やはり町としてどういうふうに考へるかということはやっつけていかなければいけませんけども、それらの問題を町民の一人一人まで落とし込んでやっつけていくということは、役場としては非常に難しいのではないかとこのように思っております。

7 番 瀬 戸 終わります。